

## お茶の水に歸る

倉 橋 生

○昨年九月二日、我が東京女子高等師範學校が全部烏有に歸してから、われ／＼は可なり不便な日を送りました。小石川の帝國女子専門學校内の二つの教室を借りて、兎に角假保育場を開くことの出来たのは、その頃として、どんなに深い好意によることであつたか分りません。今にして、更に感謝の記憶を新たにするのであります。

○假保育場は出来ましたが、器具が全部ありません。いづれ、しつかりしたものを新規につくる迄、之れも假りのもので我まんしなければなりません。そこで、ごさ敷にして、簡単な坐り机を用ひることにしました。その粗末な机の上で、無邪氣に、面白さうに繪など畫いて居る子ども達を見て、私達は、強ゐて元氣そうに笑つて見たりしたのでした。

○斯ういふ時の同情ほど、我達に喜しいことはありません。ピヤノを寄附して下さる方がありました。オルガンを寄附して下さる方がありました。玩具を寄附して下さる方があ

りました。私達は、其れ等の同情を集めて、我達の幼稚園をつくりました。

○學習院初等科の兒童諸君——恐れ多いことながら、宮さま方も御いつしよに——が、履災幼稚園のために寄附して下さつた玩具類も、我達の幼稚園へ頒たれました。私達は、その中に、貴い方の御用ひになつたものもあることを思ふて、その品々を有り難い紀念にいたして居ります。

○その長い日數が、今から思へば短く過ぎて仕舞ひました。そして、三月の二十二日に、お茶の水の舊位置へ歸りました。之れも本建築ではなく、所謂バラックといふて居りますが、何せよ、自分の家へ歸つたのです。私達の喜びは申様もありません。殊に、廣さに於て充分の廣さと、もの皆新らしい心もちよさを具へて居ります。私達は、之れから之れを充實してゆくのです。

○二十四日に、今度幼稚園を了へた幼兒達のために、此の新園舎で最後の集いをしました。子ども達も、幼稚園を去る前に、一度でも、こゝへ來たことを喜びました。この八日から、いよ／＼私達のお茶の水幼稚園が初まるのです。

(四月四日)